

## ○ 研究内容

### 【ランニングエクササイズ】

モチベーションを高めるウォーミングアップ



### 【振り渡しの様子】

熱心に指導する外部指導者



### 【グループ練習の様子】

動きを確認する生徒



### 【発表会の様子】

成果を生き生きと表現する生徒



### 【授業後の感想】

ダンスへの取組について

- 今回の保健体育の授業で改めてダンスが楽しいことが分かりました。私は友達とよくダンスをしますが、上半身だけのダンスが多いので、全身を使ったダンスは、新鮮でした。
- 踊っている時に声を出したり、ジャンプをしたり、フロアを使った動きをしたりすることは、とても楽しかったです。後半のオリジナルダンスのところは、友達とかかわることができ、とても充実した活動になりました。来年のダンスの授業が待ち遠しいです。
- 中学校に入って、初めてのダンスの授業でした。僕は、今まであまりダンスが好きではなかったけれど、講師の先生の指導がとてもわかりやすかったので、ノリノリで踊ることができました。グループのみんなとも協力して楽しくできたのでよかったです。
- 発表の時は、うまくいかなかったので少し悔しかったけれど、堂々と踊れたのでよかったですと思います。来年のダンスの授業も楽しみです。

### 【来年度に向けての考え方】

今年度の成果をふまえて

- 本事業を活用することにより、ダンスの技術はもちろん、生徒のコミュニケーション能力を中心とする関わり合う力に向上が見られた。来年度もぜひ活用して、生徒の表現力向上を目指したい。

## 中学校ダンス指導における外部指導者の活用および効果的な指導の在り方について

学校名 松山市立椿中学校（愛媛県）1・2年

全校児童生徒数 534名（男子300名 女子234名）

種目 ダンス（現代的なリズムのダンス・創作ダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 089（957）8650

学校メールアドレス ogasawara-youji2@esnet.ed.jp

### 1 実践研究のねらい

- (1) 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導方法
- (2) 生徒の関心・意欲や向上心を育てる工夫

### 2 実践研究の概要

#### (1) 課題について

- ① 本校保健体育科教員は、ダンス指導の経験が少なく、効果的な指導が十分にはできていない。
- ② 1年時にダンスを経験した本校2年生の中には、ダンスに親しんでいない生徒もいる。

#### (2) 期待される成果（仮説）について

##### ① 外部指導者との連携によるダンスの効果的な指導方法

- ア 大学生という年齢的にも精神的にも、生徒と近い距離感にある外部指導者が指導に携わることにより、生徒にとってダンスが身近な教材として感じられる。
- イ 担当教員と外部指導者の役割分担を明確にすることにより、ペアやグループでの学習活動場で効果的な支援を施し、協同的・協力的な雰囲気を高めることができる。

##### ② 生徒の関心・意欲や向上心を育てる工夫

- ア テレビやインターネットを通して目にしたことのあるダンス技術を積極的に取り入れれば、ダンスに関する興味・関心や運動意欲を高める。
- イ 視覚的に自己の技術向上を確認する機会を与え、達成感や充実感を味わい、ダンスの楽しさを感じさせる。

## ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

### 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

#### (1) ICT機器（タブレット）の活用

ペアやグループでの学習活動場で担当教員がタブレットで動画撮影を行い、生徒自身に内容を確認させ、課題解決の手がかりにさせるとともに、生徒の関心・意欲や向上心を育てる機会とした。

#### (2) 前年度の学習内容の踏襲

ランニングエクササイズをはじめとして、生徒の学習活動の随所に、前年度の内容を踏襲する場面を数多く取り入れることにより、経験未熟な担当教員が、円滑に生徒への支援活動を行えるよう工夫した。

## ○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 ランニングエクササイズとストレッチを授業のはじめに必ず取り入れ、心と体のウォーミングアップを十分に実施することを心掛けた。

2 複数列の横隊を学習活動の基本隊形とする保健体育科授業の考え方を優先せず、体育館全体の中に、生徒一人一人が安全に活動できるスペースを確保させた。

## ○成果の意義と今後の課題

1 前年度の学習内容を踏襲した授業を展開することにより、担当教員自身の指導経験を生かす場面が数多くなり、生徒とともにダンスの楽しさや魅力を感じ、ダンスの技能を高めることができた。さらには、ダンスリーダー的立場で学習に臨む生徒が数多く育ち、担当教員と同等の支援活動を展開することができるようになったことは、想定外の有益な成果であった。

2 外部指導者を活用した授業を効果的に展開する上では、生徒と外部指導者の良好な関係作りが大前提にあることを再確認した。保健体育科授業の中では、年間を通して、様々な学習訓練に力を注いできている。結果的に、指導者に注視して耳を傾ける学習態度が、外部指導者にとっても望ましい指導機会として捉えることができ、互いの関係を良好に発展させていた。

3 2年間を一つの学習サイクルとしてダンスの授業を展開したことにより、技能段階や生徒自身の意欲に応じた学習活動を展開することができた。今年度の1年生も、次年度のダンスの学習に対して前向きな反応を数多く示していることから、今後でもできるだけ多くの外部指導者（大学生）の指導を活用する機会を期待したいと考えている。

## ○研究内容

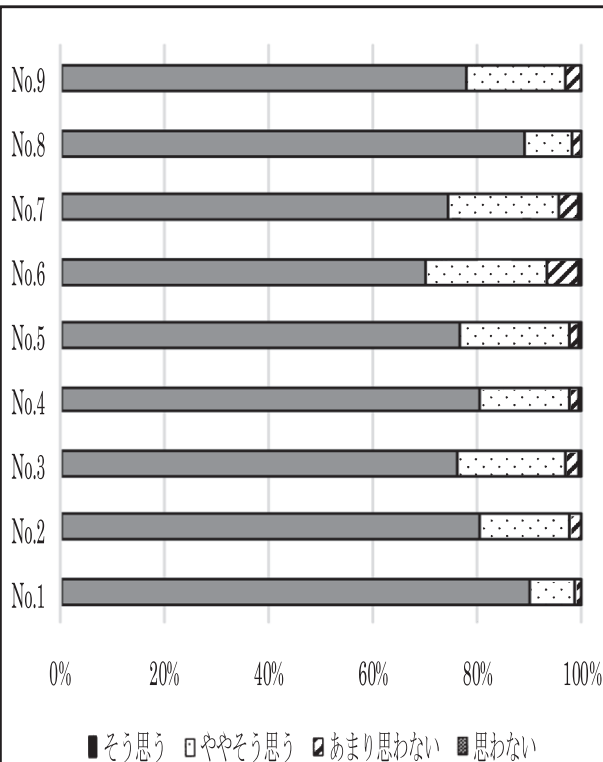
### 【ICT機器活用】

タブレット端末で自分の技術を観察している様子



### 【中間発表会】

それぞれのグループの発表を観察している様子



### 【ダンスについてのアンケート】2年生

- 1 ダンスの学習に意欲的に取り組むことができたか。
- 2 相手のよさを認め合いながら取り組むことができたか。
- 3 分担した役割を果たそうとしたり、相手の学習を助けたりすることができたか。
- 4 健康・安全に留意して、取り組むことができたか。
- 5 自分やグループの課題に合った練習方法を選んで活動することができたか。
- 6 演技を見せ合ったり、発表したりする場面で、相手のよい動きや表現などをアドバイスすることができたか。
- 7 創作ダンスでは、動きに変化を加えたり、隊形を工夫したり、自分たちで考えて表現したりすることができたか。
- 8 ダンスの魅力や面白さ、動きの技術などを理解することができたか。
- 9 表現の仕方、ダンスに関連して高まる体力などを理解することができたか。

### 【成果と課題】

昨年度と同様に、現代的なリズムのダンスと創作ダンスを組み合わせ授業を展開した。1年時にダンスの授業を学習済の2年生は、早い時期から、外部指導者との再会を楽しみに待ち焦がれるほど、ダンスに対して前向きな態度を示していた。そのため、大変よい雰囲気の中で2年目の授業をスタートさせることができた。学校行事等との関係で、前年度より少ない時数で授業を進めなければならなかったが、始業前や昼休みなどのすき間時間を利用して、生徒が自主的に練習活動を進める場面も数多く見られ、生徒の関心・意欲や向上心は、昨年度にも増して大きく向上したのと考えている。

中学生になって初めてのダンスの授業となった1年生は、2年生と同様に男女共修での授業を展開した。ダンスの楽しさやすばらしさを2年生から伝え聞いていたこともあり、互いに刺激し合い、互いを高め合う姿勢は、前年度の1年生よりもスムーズにできあがった。

上述の成果については、ダンスの技能を高めることだけではなく、ダンスを通して身体を動かすことの楽しさを伝えるという、外部指導者の情熱あふれる指導方針に起因していると考えている。1・2年生ともに、積極的に外部指導者と関わろうとする取組を通して、表情や表現力豊かな生徒が数多く見られるようになり、外部指導者の活用が効果的であったことの裏付けともなっている。

アンケート結果（2年生）から、すべての質問項目において、肯定的な回答の数値が昨年度（1年時）を上回った。来年度以降も同様の機会に恵まれるのであれば、外部指導者の活用を通じた効果的な指導の在り方について、一層の研究を深めていきたい。

## 地域の指導者による指導で生徒の創造力を高めたダンスの授業の実践例

学校名 松前町立松前中学校（愛媛県）1・2年  
全校児童生徒数 364名（男子184名 女子180名）  
種目等 ダンス（現代的なリズムダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 （089）984-1149

学校メールアドレス matutyu@town.masaki.ehime.jp

### 1 実践研究のねらい

- (1) 現代的なリズムダンスの基本的かつ特徴的なステップや動きを身に付ける過程で、ダンスの楽しさを味わうことができる。
- (2) 身の回りにある動きの素材を用いて、グループの課題や自己の能力に応じた振り付けを協力して創作するため、自分のアイデアや気持ちを伝え合うことができる。（話し合い活動）

### 2 実践研究の概要

#### (1) 課題について

本校の保健体育科年間計画では、ダンスの授業は1・2年生で隔年履修となっており、1・2年生どちらかで履修したダンスの学習を経て3年生で改めて学習が発展する。もちろん、小学校でも運動会の表現のプログラムを通して、群舞やマスゲーム等を経験しているが、1・2年生の学習が生徒にとって重要な基礎となる。

現代的なリズムダンスとなると、テレビの中の存在として捉えている生徒が大半であるが、生徒は「芸能人のように素敵に格好良く踊ってみたい」という願望を持っており、今回、愛媛大学の学生3名の若さと技術を活用して、質の良いダンスを学習する機会を設けることができた。

#### (2) 期待される成果（仮説）について

本格的なダンスの振り付けや厳選されたステップを学ぶことで、生徒がより楽しんで現代的なリズムダンスを学習させる。

## ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

### 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

#### (1) 出合いの場の設定

##### ① 現代的なリズムダンス（ヒップホップ）との出合い

どの講座も、最初に指導者が曲に乗ってヒップホップを踊りながら登場し、派手なヒップホップとの出合いを設けた。説明でも、理屈でもない、ダンスのスピード感や高いテクニックを目の当たりにして、生徒は大変驚いた。

##### ② 指導者との出合い

中心となる指導者は決まっていたが、補佐的に2名の学生も指導に当たったため、時間割の関係で偶発的に新しい指導者との出合いが生徒に訪れた。自己紹介の時間を設け、指導者のキャリアに触れ、人柄に触れられるようにした。

#### (2) 計画的・段階的な学習計画

7時間で実施した。毎時間のねらいを明確にして、発表会までの学習を系統的に発展させることができた。学習の進捗や本時のねらい、授業の約束等はすべてホワイトボードに集約して生徒に提示した。中には早く体育館に来て、今日の学習内容を確認する生徒もいた。

## ○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 毎時、学習の開始時に出席と共に関心のある生徒の健康観察を行った。
- 2 難易度の高いステップについては、生徒の能力に合わせて、徐々にできるように支援した。
- 3 1講座27～32名で体育館全面を使用し、十分な活動ができるスペースを確保した。
- 4 基本的な音声は放送室から出力し、マイクや生徒の体操服等はすべて舞台の上に置いた。

## ○成果の意義と今後の課題

- 1 生徒は外部指導者から、厳選されたヒップホップ系の動きを体得でき、技能が向上した。発表会では、見る側から声援を送らせ、踊りやすい雰囲気作りに全員で努め、華々しい舞台の雰囲気を演出できた。
- 2 本校の研究課題である「話し合い活動」を後半に実施した。生徒同士が相互に講評したり、感想を述べたりした。

## ○ 研究内容

**【外部指導者によるウォーミングアップ】**  
外部指導者のパフォーマンスに刺激され、生徒の動きも大きくなった。



**【グループでの創作活動】**  
外部指導者も各グループに入り、助言した。



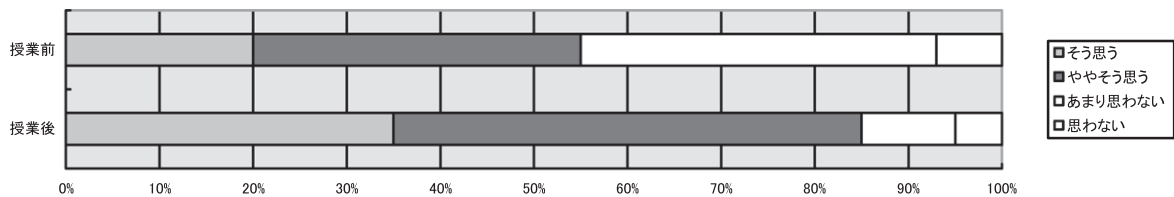
**【ホワイトボードの活用】**  
毎時間の学習内容や到達目標を前面に表示した。



**【板書の内容】**  
系統的な学習内容や進度が生徒に分かるように表示した。

**現代的なリズムダンス** 2-3・4  
 目標：リズムに合わせて体を大きく動かそう  
 \*積極的にダンスに挑戦する 今日の先生  
 \*安全に気を付ける 緒方 和希  
 \*移動を早くする（5秒）  
 \*動きを大きく  
 ステップ  
 ランニングマン/クロスハンド  
 1人→2人→1人→移動→創作 8×3・ポーズ3秒

**【生徒の意識調査「ダンスを楽しめますか」】**  
「友達の前で踊る」といったダンスに対する抵抗感が緩和された。



**【今後の方向性】**  
対人（友達・先生等）との関わりの中で、生徒は自分の感情や未熟な部分が解放でき、ダンスを身近なものにすることができた。

3名の外部指導者の指導力により、生徒がダンス（指導者にも）に対して憧れを持ち、のびのび生き生きと学習を進めることができた。陸上・バレー・新体操からダンスへの転身という指導者の経歴から、「ダンスを通して身体を動かすことの楽しさを伝えたい」「ダンスを通して自分自身を表出させたい」といった外部指導者の想いと保健体育科教員の指導方針が、生徒をよりよい方向へ導く結果となり、これまで以上に、ダンスが身近なものとなった。

今年度の文化祭では、3年生を中心に学習発表の部や有志発表の部で、完成度の高いダンスパフォーマンスが披露された。この学習経験を、1・2年生がよい形で、さらに表現や技能を高めてくれるものと感じた。

来年度については、1・2年生男子がダンスを履修する予定になっており、引き続き指導を依頼し、外部指導者と協力して、生徒の実態や能力に応じたダンスの授業が展開できれば、その楽しさを男子生徒も味わい、男子ならではの力強いダンスパフォーマンスが期待できると考える。

## 基本動作と基本となる技の効率的な習得に向けた剣道授業の実践例

学校名 大洲市立河辺中学校（愛媛県）1～3年  
全校児童生徒数 12名（男子5名 女子7名）  
種目等 武道（剣道）  
（本事例に係る問合せ先）  
電話番号 （0893）39-2524  
学校メールアドレス [kwb-jof@esnet.ed.jp](mailto:kwb-jof@esnet.ed.jp)

### 1 実践研究のねらい

- （1） 外部指導者の経験や専門的な知識を有効に活用して、生徒に剣道の基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせ、剣道に親しみ、楽しむことができる生徒を育成する。
- （2） 経験の浅い生徒の技能向上につながる実践的方法についての研究を行う。

### 2 実践研究の概要

- （1） 課題について  
初めて行う剣道に対して抵抗感を感じている生徒がいることと、防具の着脱に活動時間を奪われることが予想される。
- （2） 期待される成果（仮説）について  
剣道の基本動作や基礎的な技能を効率的に習得することができれば、剣道に対しての興味・関心が高まり、学習に積極的に取り組むことができる。

## ○課題を解決するために実践した具体的な取組について

### 1 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- （1） 面打ちを中心に基本打突の反復練習（常に中心を打つようボール打ちも導入）を行った。
- （2） 礼法、基本動作や基本となる技を身に付けさせるために「形」を重視した稽古法を取り入れ、学習の中心として行った。 ※「木刀による剣道基本技稽古法（日本剣道連盟）」
- （3） 防具を装着しなくても学習を進められるよう、「寸止め」を取り入れて「形」を重視した学習に時間をかけ、正しい姿勢や技の仕組みの理解、基本動作の習得を行った。

## ○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 竹のささくれや弦のゆるみなど、竹刀の点検を毎時間行うとともに、生徒自らにも徹底させた。
- 2 生徒一人一人にマナーと安全面についての配慮を徹底させた。
- 3 剣道でよく使う部位を中心に、準備運動をしっかりと行わせた。

## ○成果と今後の課題

- 1 100分×7日で構成したため、一つの技や動作等の指導に十分な時間をかけることができた。
- 2 外部指導者と教諭2名での授業展開により、生徒の技術的なつまづき等、細部まで観察及び指導ができた。
- 3 ユーモアを交えながら、基本的な技能の習得に重きを置いて実施したため、苦手意識をもった生徒にも比較的受け入れやすい学習内容となった。
- 4 今後の剣道指導や生徒への啓発活動について、外部指導者と教師間で来年度に向けての意見交換が十分になされた。
- 5 3学年合同の授業であるため、習熟度の違いが随所に表れた。今後は教師主導の学習と、上級生をリーダーにした小集団での課題解決型の学習を併用して学習を進める必要がある。